

2019年 第64号

発行責任者 院長 朝妻 孝仁



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重します。
- 安全で優しいチーム医療を提供します。
- 倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
- 地域医療連携の促進を図ります。
- 骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
- 職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

新年の挨拶

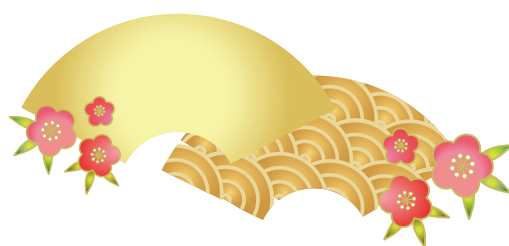
院長 朝妻 孝仁

新年明けましておめでとうございます。平成最後のお正月、皆様いかがお過ごしになりましたか？

村山医療センターは今年、大きく変わります。一昨年始まった新病棟の建設がいよいよ大詰にきました。当初は昨年12月に完成予定でしたが、工程に遅れが生じたため本年3月上旬に完成の運びとなりました。現時点で、3月21日に引越しを予定しています。近隣の皆様には、工事に伴う騒音、振動、及び工事関係の車両の出入り等で大変ご迷惑をおかけしたことを改めてお詫び申し上げます。

さて新病棟は、病床数は従来と変わらず303床ですが、西病棟と東病棟を一つの建物に統合し、地上6階建てです。1階（第1病棟）は回復期リハビリ病棟、2階（第2病棟）が運動器リハビリ病棟、3階（第3病棟）が地域包括ケア病棟で、4階から6階（第4～6病棟）が一般病棟です。新病棟の特徴は脊髄損傷や脳血管障害の患者さんが、快適にリハビリテーションを行うことができるように配慮した点です。すなわち車椅子、あるいは歩行器での移動がスムーズに行えるよう、廊下の幅を従来の2.5mから4.7mと大幅に広げ、トイレ、浴室、およびベッド周囲にも十分なスペースがあるように設計されています。個室の数も従来は19室であったのに対して、新病棟では63室と大幅に増やしました。さらに1階には収容人員140名の地域医療研修室があり、各種セミナー、市民公開講座等の開催が可能となります。

当院は従来より骨運動器疾患、すなわち整形外科、およびリハビリテーション科を中心として診療を行ってきました。手術件数が全国で1、2位を誇っている脊椎・脊髄外科に加えて、最近では下肢関節（膝関節、股関節）、および上肢（手、肘関節）の分野でも実績を伸ばしています。さらに内科、外科でも常勤の専門医が診療にあたっています。当院には地域包括ケア病棟がありますので、在宅の患者さんのレスパイト入院、リハビリ目的の入院にも対応しています。これからも地域に根ざした医療を住民の皆様提供していきたいと考えています。「患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。」という理念のもと、今後ともスタッフ一同努力してまいりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。



新任のご挨拶

整形外科医師 大木 有佑



10月から村山に赴任いたしました、大木有佑と申します。
9月までは静岡市立清水病院にて勤務しておりました。
膝関節を中心に、股関節、外傷など幅広く診察させていただいております。
整形外科としては5年目であり、まだまだ若輩者ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるように日々努力してまいります。どうぞよろしくご挨拶申し上げます。

整形外科医師 片山 正典



2018年12月より当院に配属となりました肩山…ではなく、片山です。
肩を専門としております。
当院は日本でも有数の背骨のメッカです。首からくる不調だろうと当院にかかられても、実は肩が原因だった、ということも多く耳にします。

「首だと思ってきたけど、肩のせいといわれた…どうしたらいいんだろう」

そんな時はどうぞそのまま当院で。

肩は日々動かす関節で、しかも複雑なつくりになっているため、治るまでは非常に長い時間がかかることも多い、手術をしなくても、長くお付き合いすることの多い場所です。当院は大勢のみなさまがお越しくださる病院のため、なかなかおひとりに費やすことのできる時間に限りはありますが、せっかくお越しくくださったのですから、ご本人、ご家族にわかりやすくお話しし、最後まで、ここにきてよかったといわれる医療の提供を心掛けております。

なお、今後は外来リハビリ、関節鏡手術なども取り入れる予定で、鋭意準備をしております。どうぞよろしくご挨拶いたします。

医療安全ポスター賞、開催しました！

医療安全管理係長 佐藤 みづほ

毎年11月25日を含む1週間は「医療安全推進週間」として位置づけられ、医療の安全にむけた様々な取り組みが実践されています。

当院では昨年度からこの期間に各部署で作成したポスター展示を行っております。

今年で2年目の取り組みですが、今回も各部署の特徴が活かされた楽しいポスターが出来上がってきました。この期間は廊下を往来する皆様が足を止め、様々な工夫を凝らしたポスターに見入っていました。新病棟工事中の殺風景な廊下を彩ってくれたように思います。



自部署には投票できないというルールから、どの部署が最優秀賞に選ばれるのか、企画した医療安全管理室でも楽しみにしていました。1ヶ月ほどの掲示期間中にどなたにでも投票していただき、12月3日に開票日を迎えました。

最優秀賞は2年連続「看護部 外来」が受賞です。ポスターのモデルを「朝妻院長」としたことが勝因でしょうか！次いで優秀賞は「理学療法部門」です。この部署はQRコードを読み取ると「YouTube」で動画も視聴できるという、大変凝ったものを作ってくれました！

3位は同点で「栄養管理室」と「看護部 9病棟」です。とてもかわいく、またインパクトのあるポスターとなっていました。

各部門、多忙な業務の中、大変素晴らしいポスターを作成してくださり村山医療センターのチーム力の高さを実感しました。このように医療安全活動に意欲的な職員に囲まれた医療安全管理室は、今後も医療の安全に向けて尽力して参ります。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

最優秀賞
外来



優秀賞
理学療法



3位
9病棟



3位
栄養管理室





讃美歌に癒されたクリスマスコンサート



看護部広報委員長 小山 由紀子

毎年恒例となりました日本ルーテル神学校聖歌隊の学生さんによるクリスマスコンサートが、12月8日土曜日の午後に行なわれました。このコンサートは、入院中の患者さんに心の癒しと季節感を届けたいという思いから開催し、今年で17回目となります。普段はリハビリテーションで賑わう理学療法室ですが、この日は真っ赤なポインセチアやクリスマスツリーが飾られ、華やかなコンサート会場になりました。患者さんとご家族の方々を含め約140名が集いました。そして、濃い紫色の制服に身を包まれた聖歌隊はとても清楚で新鮮に映りました。

『聖フランシスコの平和の祈り』『もろびとこぞりて』『We wish you a merry Christmas』等10曲の清らかな歌声が会場内に包まれて、心が洗われ癒された方も多かったと思います。また聖歌隊の皆さんと一緒に『きよしこの夜』を合唱しました。「病院でクリスマス気分が味わえました、綺麗な声ですね。」と患者さんの笑顔が見られてスタッフの心も温かくなりました。清らかな歌声は言霊となり、多くの患者さんの心に届いたと思います。

聖歌隊の皆さん、ありがとうございました。来年は新しい病院で、歌声を聴けることを楽しみにしています。



銀杏並木の下には、沢山の銀杏が落ちています



ルーテル神学校聖歌隊



新病棟は完成間近です



武蔵村山市民駅伝競走大会に参加しました！

理学療法士 橋本 克也

12月9日に開催された第46回武蔵村山市民駅伝競走大会に、村山医療センターから今年一般の部には3チーム、女子の部には2チームが出場し、総勢38名のTeamになりました。医師・看護師・地域連携室看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床検査技師・ソーシャルワーカー・薬剤師・管理課職員など多職種が集まり1チーム6人の選手と補欠でチームをつくりました。

たくさんの職員が沿道から声援をおくって下さり盛り上げてくれました。ありがとうございました。皆さんの声援が力になりました(^_^)☆

皆さんの応援のおかげで、一般の部ではなんと第2位(悲願の表彰台)と第16位と第31位、女子の部では第4位、第8位という成績を残すことができました。また、女子チームからは第6区の宇内景先生(リハ医)が区間賞を獲得しました。区間賞は逃しましたが、1位と5秒差などかなり健闘した職員もいるなど精鋭ぞろいのTeamでした。

出場した職員は「意外と速く走れた」「すごく楽しかった」と話をしていました。当日は寒かったですが、気持ちは熱く、走り終わった後は皆笑顔で終えることができました。また、沿道から声援を送って下さった職員も含め、チーム一丸となって楽しむことができる一日でした。

来年も今年を超える精鋭で出場予定です。しかし、監督が今年で勇退の為、来年は監督・選手募集中です。また来年も応援よろしくをお願いします。



整形外科医長 許斐恒彦 医師、 第53回日本脊髄障害医学会学会奨励賞(臨床部門)を受賞しました

2018年11月22日から23日に愛知県産業労働センターウイंकあいちで開催された第53回日本脊髄障害医学会において、当センター整形外科医長である許斐恒彦医師が学会奨励賞(臨床部門)を受賞しました。

本学会は、東京パラリンピックが開催された2年後の1966年、当時の急速なモータリゼーションの発達による脊髄損傷患者の急増に反映される形で、日本パラプレジア医学会として第1回大会が開催されました。その後、回を重ねるごとに発展を遂げ、脊髄再生医療という新しい波にも呼応すべく、2002年に日本脊髄障害医学会に名称を改め、現在では脊髄損傷を中心とした脊髄障害の病態、治療、管理、リハビリテーションなどに関する研究発表、知識の交換、研究者の交流の場となっています。会員数は1300名を超え、脊髄障害に関係する整形外科、脳神経外科、泌尿器科、リハビリテーション科、神経内科などの医師や関連するコメディカル等、多岐にわたる職種が一同に会する学際的学会です。本賞は毎年の応募演題の中から最も優れた発表を行った者に対して、基礎部門・臨床部門各1演題ずつに授与される名誉ある賞なのです。

許斐医師は、北海道せき損センターに出向中にまとめた臨床データを用いて、頸髄損傷の損傷程度を加味した機能予後に関する研究成果を発表しました。本研究では、外傷性頸髄損傷患者447例中、初療時に完全運動麻痺を伴う患者87症例の様々な因子の中から機能予後不良に寄与する独立因子について、ロジスティック回帰分析を行ない、初診時T2強調MRIにおける高輝度内低輝度信号変化、高度な脊髄圧迫、脱臼転位の存在が、予後不良の危険因子であることが分かりました。受傷時の麻痺の程度にMRI画像所見を加味することで精度の高い機能予後予測が可能であることを実証し、その研究成果とプレゼンテーションが認められ、今回の受賞に至りました。

脊髄損傷は不治の病態と考えられてきましたが、外科的治療および基礎研究の進歩により、再生医療への扉が今まさに開こうとしています。脊髄の損傷状態を受傷後早い段階で把握

することで、再生医療の適応となる脊髄損傷の早期判定や、脊髄損傷患者の転帰に大きな貢献をもたらす可能性があり、本研究をもとに脊髄損傷治療に希望の光を与えることを願ってやみません。



写真

左から順に、学会奨励賞(基礎部門)を受賞した谷本祐之医師(慶應大学整形外科)と許斐医師

ヒーリング・アート展示プロジェクト

7病棟看護師長 前田 沙織

昨年12月4日より病棟に3点のアート作品が飾られています。

これらの作品は「ヒーリング・アート」と呼ばれるもので、心が明るくなり、落ち着く効果を得ることを目的とした芸術作品です。医療・福祉環境の改善に取り組まれている山野雅之教授のご協力とご厚意により展示プロジェクトは実現しました。作品は女子美術大学の学生さんが作成されたコラージュ作品です。この作品に登場するのは①オオワシ、②柴犬、③ニホンカワウソ、という日本に生息する動物が選ばれています。色彩も明るい色ですが、強く目立たない優しい色合いで、動物の表情も温かみのある素敵な作品です。



院内ボッチャ大会の開催を終えて

8病棟看護師長 五畿田芳枝

平成30年12月1日に東京都立小平特別支援学校連携協力のもとで、ロンドンパラリンピックボッチャ日本代表チーム監督の古賀稔啓先生を招いて、院内ボッチャ大会を行いました。「ボッチャ」とは、ヨーロッパ古代ギリシャで生まれた球投げであり、6世紀のイタリアで現在の原型ができたと言われています。現在ではパラリンピック競技の正式種目となっています。具体的な方法は、ジャックボールと呼ばれる目標球に、表面に縫い目の



ある独特の転がり方をする赤・青のボールを自分の意志により、投げたり、転がしたり、他のジャックボールに当てたりして、いかに赤・青のボールを近づけるかを競います。何らかの身体機能障害によりボールを投げることが困難であっても、介助者に自分の意図や意思を伝えることによって参加が可能な競技なのです。

赤・青ボールのチームに分かれ団体戦の形で始まりました。参加して下さった皆さんそれぞれが、ボールを投げ始める位置や投げる距離を慎重に考えながら一投一投を投じ、また、ボールを投げるのが困難な場合は、自分の意志を介助者へ口やサインで伝え、介助者が勾配具と言う器具を用いてボールのコントロールを授かるという方法で初めてのボッチャに参加されておりました。各々が的を目掛け、目標球に当てることができた時には、参加者みんなで「ナイスプレー！やったあ！」と声を上げ、成功の喜びを分かち合うこともできました。また、初めて扱うボールのコントロールがうまく行かずに、「残念！もう少しだったあ！次は当ててやる！」と悔しがるところも見られました。

私自身ボッチャの体験は初めてであり、作戦次第で競技結果が幾通りにも変化していく面白さを持つスポーツだと実感致しました。

村山医療センターは、整形外科や脳神経の疾患を抱えながらリハビリテーションを継続し日常生活を再獲得するために多くの方が入院されます。疾患によっては重度の障害を抱えながらもリハビリテーションに懸命に取り組んでいる患者さん方がおられます。

ボッチャのような楽しい活動からあらゆる活動へと広がりにつながると感じました。

個人や団体の戦術や競技器具や介助者のサポートにより、「誰しものがスポーツに参加し楽しめる」というボッチャ競技の魅力を多くの人に体験して欲しいと願っています。そして、2020年東京パラリンピックという国際的大会への道につながる「夢」へのきっかけとなったら幸いです。



“その肩は、本当に五十肩ですか？”

整形外科医師 片山 正典

五十肩、四十肩は、使いすぎで炎症が起きた状態で、肩関節周囲炎（もしくは凍結肩）といえます。

「最近肩があがらなくてねえ」

「五十肩でしょ、年取るのは嫌よね」

よくそういう話を耳にしますが、本当に五十肩なのでしょうか…

実際に“肩が上がらない”場合、その理由には

硬くてあがらない

力が入らなくてあがらない

ひっかかってあがらない

の3つのパターンがあります。いずれも、ほとんどの場合、痛いという訴えも聞かれます。（痛いからこそ整形外科を受診されるわけですね）

実際には、3つがまざっていて、はっきりとわけられないことも多いので、結局は「受診してください」

という結論になってしまいますが、この3つは原因が違います。おおまかにお話しすると

1. 硬くて動かせない

自分で動かしても、ほかの人が動かしても、ある程度まで上げると痛くなる場合。これがいわゆる「五十肩（肩関節周囲炎）」です。

2. 力が入らない

自分では動かせないけれども、反対の手やほかの人が動かすとあがる場合。これは「腱板断裂」といわれます。腕を吊り上げるための筋肉が切れています。

3. 引っかかる

ある程度腕を上げるとひっかかってそれ以上動かせない場合
石灰（カルシウム）が骨や筋の周りに沈着したために起こります。

中年、壮年期は、体の衰えを自覚してくる時期にもかかわらず、社会的な負担は増えてきますし、若い人たちに負けまいと無理をしたりすることが多いと思われれます。そういう、ちょっと無理をして体を痛めてしまいやすい時期になる肩の炎症なので、肩関節周囲炎は四十肩、五十肩といわれます。そういう時期をなんとか乗り切って、ついに力尽きたのが腱板断裂というイメージです。なので、腱板断裂は老年期に多いといわれます。実際には想定以上の負担が肩にかかって断裂することもたくさんありますので、中壮年でも腱板が損傷／断裂していることも多く見受けられます。

いずれにせよ、判断が難しい場合も多く、対処法を間違えると症状を悪化させることも多いので、どうせ薬出して終わりだろうと思われず、きちんと整形外科を受診されることをお勧めします。



ゴールデンウィーク中の診療体制についてお知らせ

本年のゴールデンウィーク中の診療体制については以下の通りになります。

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
					4/26 通常通り	4/27 休診
4/28 休診	4/29 昭和の日 通常通り	4/30 国民の休日 通常通り	5/1 新天皇即位 通常通り	5/2 国民の休日 休診	5/3 憲法記念日 休診	5/4 みどりの日 休診
5/5 こどもの日 休診	5/6 振替休日 休診	5/7 通常通り				

今年のゴールデンウィークは10連休になる予定ですが、
当院は4月29日から5月1日までは通常通りに外来も病棟も手術室も稼働して
おります。 予約された患者さんも初診の患者さんも、いつものように診察いた
 しますのでご安心ください。

※院外薬局につきましては、休業となる所もありますのでご注意ください。

不明な点、お問い合わせ
 独立行政法人 国立病院機構
 村山医療センター
 042-561-1221 (代表)



外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一般外来 ※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで) 平成31年1月1日現在

診療科等	月	火	水	木	金	備考		
内科	片寄	岡田	片寄	岡田	岡田			
外科	大石	飯野	松岡	飯野	大石			
整形外科	再診	脊椎	○朝妻 ○竹光 小柳津	◎谷戸 ◎藤吉 加藤(貴) 松林	○○金子 山根	○○許斐 矢内	小見山 松川 辻	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清水		大木	吉原	笹崎	股・膝関節・下肢
		手	加藤(直)		加藤(直)			手指・上肢
		一般		片山				
	初診	交替制						
リハビリテーション科	富岡	植村	竹内		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…竹内 第2金…植村 第3金…富岡		
歯科	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制		

■ 専門外来 (全て予約のみ)

診療科等	月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ				片寄 (13:00～)		予約制
側弯			金子 (13:30-15時)	金子 (第2-4週13:30-16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:00～)					予約制
禁煙外来		岡田 (午前11:30～)		岡田 (午前11:30～)	岡田 (午前11:30～)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

診療について

診療日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科)随時受付けております。

専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。

毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1

TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210

URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>